

ALBATECH NEWS

アルバテックニュース

再生可能エネルギーで地域活性化

多自然地域の小規模集落の

エネルギー自立 のむらづくり



チバテレビ「ホリプレゼンツ 求人任三郎がいく！」
で「SOLAR 営農」が紹介されました。(2015年1月23日放送)
現在、チバテレビ公式 YouTube で公開中。
詳しくは番組 HP (<http://mypl.net/contents/html/ninzaburo/>) から

チバテレビ

2015
早春特別号

地域自治会の新しい活動拠点づくり



去る2015年1月13日兵庫県朝来市の与布土地域自治協議会（10集落502世帯）が、高齢者活動センターとして利用する旧与布土小学校校舎（同市山東町）

に整備していた太陽光発電設備と与布土体育館（旧与布土小学校体育館）の非常用電源の蓄電設備が完成し、開所式が取り行われました。

開所式では、兵庫県の支援事業として「**エネルギー自立のむらづくり支援事業**」の第一号の認定証も交付。

つづいて与布土体育館の照明とコンセントの点灯式が行われました。

この開所式に太陽光発電と蓄電池設備の設計・施工を請け負った弊社も参加させて頂きました。



認定書の交付

与布土地域自治協議会の活動資金は地域自治包括交付金を基本に、公共の補助金や施設管理委託業務に加え、コミュニティビジネスによる自主財源で賄われています。

太陽光発電と蓄電池の設置について



屋根に設置した太陽光パネル

旧小学校校舎の南側屋根一面に合計192枚

（48Kw）の太陽光パネルを設置。また、「**エネルギー自立のむら**」の認定要件に「災害時に利用する集落拠点に、再生可能

エネルギーを活用した非常用電源を導入すること」とあることから、二次避難所である体育館にアルカリイオン蓄電池（5kW+5kW）を設置。パワーステーションを介して太陽光発電から蓄電池へ電気が供給されるシステムを構築しました。

電気の地産地消で生まれ変わる地域

総工費は約2,200万円。発電した電気は電力会社に売却し年間160万程度の売電収入を見込んでいるそうです。

得られた収入で借入金返却や必要経費を賄い、そのうち年間30~40万円を同自治協議会の活動費等に充てること。また蓄電池は、災害時に電力会社からの送電

そして自治協会の施設の維持管理やさらなる地域活動の財源の自主的確保の手段として、平成25年12月に太陽光発電設備の検討に入りました。

この時点から弊社にご相談頂き、「太陽光発電設備設置事業計画」案の作成に協力し、設備の設計を行いました。そして、平成26年10月に兵庫県より「**エネルギー自立のむらづくり支援事業**」補助金交付決定及び貸し付け金採択を受けた事により、設計を行った弊社が、太陽光発電設備及び、蓄電池設備の設置工事を請け負いました。

こうして与布土地域自治協議会の新しい地域の活動拠点が誕生しました。



認定証を持つ与布土地域自治協議会岡林会長（左）と弊社高木会長

が停止しても被災者が使う電気を賄うことが出来ます。昼間はコンセント用電源として使用し、余った電気は蓄電。夜間は避難所内の照明に使う事が出来ます。



与布土体育館に設置されたパワーステーションと蓄電池

電気を発電しそれを売る事で収入を得て、その上で過疎化が進む集落地域における避難所などの施設整備の遅れを解決する。設置が容易な太陽光発電設備だからこそ出来る画期的な再生エネルギーの利用法と言えます。

まさに、**電気の地産地消**によって地域の活力の再生を推進するという地域活性化のモデルケースではないでしょうか。

株式会社アルパテック **ALBATECH** アルパテックニュース

発行日：2015年2月10日

発行元：株式会社アルパテック 東京本社

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町3-27-1 大洋ビル102

TEL: 03-5823-4580 FAX03-5823-4582

www.alba-tech.jp